和尚さんの心に浮かぶこんなこと

平成編

曹洞宗
長泉寺

目次

五十三歳の手習い・・・平成19年12月……7
ねこ寺（御誕生時）にて・・・平成25年10月12日……7
宗立専門僧堂・・・平成25年10月30日……8
筧（かけい）のしずく・・・平成25年11月12日……10
坐禅と仏膳・・・平成25年12月4日……11
鐘を撞く・・・平成25年12月19日……12
あけましておめでとうございます・・・平成26年1月1日……13
還暦・・・平成26年1月15日……14
涅槃会摂心（坐禅会）・・・平成26年2月5日……15
啓蟄（けいちつ）は口の中から・・・平成26年2月15日……17
柳に雪折れなし・・・平成26年3月1日……18
3年目の3月11日・・・平成26年3月12日……20
面白い本・・・平成26年4月2日……22
桜花爛漫・・・平成26年4月11日……24
学力テスト・・・平成26年4月25日……25
竹雨松風・・・平成26年5月14日……27
木々のみどり・・・平成26年5月28日……28
渓声山色・・・平成26年6月2日……30
陰徳を積む・・・平成26年6月18日……31
こころはしぐさに現れる・・・平成26年7月4日……33
お盆・・・平成26年7月30日……34
蚊取り線香・・・平成26年8月13日……35
終戦の日・・・平成26年9月3日……36
お彼岸・・・平成26年9月25日……38
達磨忌・・・平成26年10月12日……39
新幹線50年・・・平成26年10月22日……40

落ち葉・・・平成26年11月12日……41
箸の持ち方・・・平成26年11月15日……42
弔辞・・・平成26年11月24日……43
夫婦円満・・・平成26年12月29日……44
あけましておめでとうございます・・・平成27年1月1日……45
長泉寺の朝・・・平成27年1月8日……46
長泉寺の節分・・・平成27年1月23日……48
課題・・・平成27年2月6日……50
メガネ・・・平成27年2月17日……51
その一言・・・平成27年3月1日……52
3月11日・・・平成27年3月11日……53
五月病・・・平成27年5月10日……54
おむすび・・・平成27年5月20日……56
山を愛する人・・・平成27年6月3日……57
坐禅会・・・平成27年6月12日……58
朝の散歩・・・平成27年7月3日……60
立秋・・・平成27年8月12日……61
校歌・・・平成27年8月30日……62
内観・・・平成27年11月26日……63
ジューサーの季節・・・平成27年12月10日……64
年の瀬に・・・平成27年12月18日……65
除夜の鐘・・・平成27年12月26日……66
あけましておめでとうございます・・・平成28年1月1日……67
二本の松・・・平成28年1月28日……68
定物定位・・・平成28年2月24日……69
別れと出会い・・・平成28年3月11日……71

開花・・・平成28年3月30日……72
お城のある風景・・・平成28年4月29日……73
かえるのうた・・・平成28年6月16日……75
竹の子にも親切な良寛さん・・・平成28年6月30日……76
お盆を前に・・・平成28年7月27日……77
お盆が過ぎて・・・平成28年8月19日……79
仲秋の名月・・・平成28年9月14日……80
年の瀬に・・・平成28年12月14日……82
年の始めに・・・平成29年1月1日……82
寒行・・・平成29年1月25日……84
鐘の音・・・平成29年2月22日……85
東日本大震災七回忌追悼大法要・・・平成29年3月11日……86
鐘を撞くという事に・・・平成29年4月5日……94
道悟桜・・・平成29年5月3日……96
五感で聴く・・・平成29年5月23日……97
百日紅・・・平成29年6月1日……98
阿武隈急行・・・平成29年7月4日……99
日光東照宮・・・平成29年7月12日……100
エンディング産業展・・・平成29年8月30日……101
食らない・・・平成29年11月30日……103
あけましておめでとうございます・・・平成30年1月1日……104
節分会・・・平成30年1月26日……104
上野・国立博物館にて・・・平成30年3月7日……106
アルマーニの制服・・・平成30年3月14日……107
幼稚園の新しい一年・・・平成30年4月3日……109
お盆の終わりに・・・平成30年8月16日……110
霜降・霜始降・・・平成30年10月18日……110

年末・・・平成30年12月9日……112
文士・竹千代・・・平成30年12月20日……113
大晦日・・・平成30年12月31日……114
涅槃会・・・平成31年2月6日……115
多目的ホール（平成31年2月20日）……117
卒園式（平成31年3月13日）……119
お彼岸・・・平成31年3月20日……120
韋駄天さんＰａｒｔⅡ・・・平成31年4月10日……122
点浄（てんじょう）・・・平成31年4月17日……123
新しい気持ちで・・・平成31年4月24日……125

五十三歳の手習い・・・平成19年12月

鶴が大きく翼を広げたように気高く、美しく、優しい姿の本堂ができつつあります。檀信徒の皆様方とともに、この大事業の無事円成ることを祈りたいと思います。

さて、職人さん達は毎夜遅くまでカンナの刃を研いでいました。然もその姿はみな喜々として、大変な感動を覚えました。この姿を見て、私ももっと自分自身を磨く修行を積まねばならないと発奮したのでした。

「本堂だけが立派に出来上がっても中身のないガラン堂では笑われる」と思ったからです。そこで九月より、師家養成所といって、教師資格を有する僧侶を養成する修業機関に入り、一年間に九十日。それを四年。大本山永平寺や總持寺の若い修行僧に混じって座禅を中心とした修行生活を送ることに致しました。本山では毎朝三時半起床、九時就寝の生活です。正直、どこまで続けられるか自信がありませんが、何卒、ご理解をお願いしたいと思います。

修行の糧を今後の長泉寺の運営に反映させ、檀信徒の皆様方に振り向けることができれば嬉しいと念願しております。留守中、くれぐれもよろしくお願い致します。

ねこ寺（御誕生時）にて・・・平成25年10月12日

10月の初め、ある研修会があり、福井県越前市武生の御誕生寺（ごたんじょうじ）に行ってまいりました。

御誕生寺というお寺は、瑩山禅師（けいざんぜんじ）がお生まれになられた地に前の大本山総持寺の禅師様、板橋興宗禅師がお建てになられたお寺でございます。猫がたくさんおり、現在は三十人の雲水に対し八十匹の猫がいる「ねこ寺」で、私も猫好きなものですから非常に心安まるお寺です。

そこに参りまして禅師様にご挨拶にお伺いしたところ、禅師様が私の顔を見るなり「あれ！角田の長泉寺の住職か？本物か？」と、こう言うわけです。禅師さんと私は何度もお会いをしておりますので、今さら本物の住職かと言われて私も閉口したのですけれど、これは禅で言う常套手段でございまして、即座に私は

「はい、住職という職の辞令を戴いてはおりますが、本物の住職か本物の僧侶かと言われますと自信がありません」と、こう答えたら「上手いこと言うな」と、にやりと笑われました。

修行と言う話を皆さんよくされるようですけれど、修行に参りますと最初に「あなたは何処からやってきたのですか?」と老師から大体質問されます。そこで、「私は仙台から新幹線に乗り総持寺にやってまいりました」などと返事をすると、「そうですか、それならお茶でも飲んで帰りなさい」、まあこういう具合に言われてしまいます。それは、あなたはどういう境涯(きょうがい)、すなわちどういう心境でやってきたんですかと質問されているわけです。ですからそこで「はい、私は大本山総持寺で修行する。そういう心境でやって参りました」と答えると、「そうか、じゃあちょっと修行でもしてみるか」と許されるわけです。

さて最初の話に戻りますが、「あなたは本当の住職ですか」と質問されるのと「本物の住職ですか」と質問されるのでは、言葉は似てますけれどちょっと質問の内容が違います。「あなたは、誰々さんのお父さんですか」こう聞かれ、更に「本当のお父さんですか」と聞かれたのと「(お父さんとして)本物のお父さんですか」と聞かれたのではちょっと質問が違うことに気づかれるでしょう。私も「本物の人間」「本物の自分」になるように生きたいものだなと思いながら、禅師様とお話をさせていただき帰ってきました。

宗立専門僧堂・・・平成25年10月30日

現在、長泉寺を会場として8月26日から11月18日まで曹洞宗宗立専門僧堂を開催しています。海外の男性6名、女性4名都合10名、それに日本人のスタッフを合わせて20名から25名で坐禅修行を中心とする仏道修行をしています。1日4時間の坐禅を中心に、作務(掃除)をしたり、朝・昼・夕の三時の諷経、食事

の調理や作法、様々な仏教の講義等を3カ月90日間、行住坐臥に亘って修行をする道場です。

昨夜、法堂から音がするので行ってみますと二人の尼僧さんが1人は鐘を鳴らしもう1人は木魚をついて一所懸命、お経と鳴らし物の練習をしていました。そしてお互いに教え合っている姿が見られました。

自分で学んだことを他人に教えると不思議なことに自分自身の学びも深まるそんな体感をされた方もいると思います。学んだことを人に教えることによって自分の学びが深まるこれは非常に不思議なことです。しかし私の経験上これはやっぱり本当のことだと思います。

さて今回の宗立専門僧堂のテーマは「自己を習う」と言うテーマです。これは道元禅師が『正法眼蔵』現成公案巻というお示しの中で述べられているお言葉で、「仏道をならふといふは、自己をならふなり。自己をならふといふは、自己をわするるなり。自己をわするるといふは、万法に証せらるるなり。万法に証せらるるといふは、自己の心身および他己の心身をして脱落せしむるなり」から頂いたお言葉です。

仏道修行するということは自分自身を見つめ、自分自身を修行することだ、とまあ簡単に訳せばそういうことになるかと思いますが、前述したように、他人を力（鏡）とすることで、自分を見つけることができる、そのような意味にも捉えられると思います。坐禅は自分一人でする修行のように思われますが大勢の方々のお力をいただかないと出来ない。まさに「参禅は坐禅なり」（同・坐禅儀巻）です。

私たちも1人で生きているわけではなくて大勢の社会の人々に助けられて生きている。そういう生き方、ありがたさを発見するというのが私たちの修行でもあり、万物の息づかいを感ずることであろうと思います。

筧（かけい）のしずく・・・平成25年11月12日

お寺の庭には蹲（つくばい）があり、その蹲に筧から水の雫が落ちて波紋を生むようにあしらっています。筧の水は山の流れの自然水なら風情はありますが、残念ながら庭の片隅に隠してある水道のバルブで調節することになっています。

私はポトンと一滴しずくが落ちて水面に水紋が広がり、その水紋が消えかけんとする時にまたポトンと落ちる、そう言うリズムというか波長に水流の強さを調整しています。

ところが、庭掃除する方がその蹲を掃除する時、いったん水道の水を止めそしてまた出すのでしょう、人によって、その間隔がみなまちまちで流水のようになったり、よくもまぁ違うものだなぁと感心します。それと同時に、せっかく調整したのがまたやり直しをしなければならないのかと思うと残念でもあります。

さてこのように、人間には人それぞれ生まれながらに心地よく感ずるリズム、波長を持っているように感じます。例えば音楽ですが、同一曲でもテンポの速いものを好む人もいれば遅いものを好む人もいる。また時代によってもテンポは異なるようで、40～50年前のベートーヴェンの『田園』などは本当にのどかな田舎を想わせるのんびりしたテンポでしたが、最近の『田園』は疾風の如く「さーっ」とあまりにも都会風になりました。これも何か私にとっては味気ないと思いますが、いずれにしても心地良く感ずるリズム、テンポ、それは人それぞれ持っている波長のような気がいたします。

ところで、仏道の話をしますが、よく世間の人は仏道というのは仏教の一つの思想ではないかと言う人がおりますが、仏道というのは思想ではありません。

それは仏道が宇宙の事実そのものであるからで、宇宙の事実を抜きにして仏道はありえません。この宇宙の事実の波長と自分の波長が合っているかどうか、これを見極めるのが仏道であり修行だろうと思ってやらせていただいております。ですから人それぞれに自分の波長があって、結局それで良いのですね。ちょっと変な話になりました。

坐禅と仏膳・・・平成25年12月4日

11月18日、3ヶ月90日間の全日程を終了し宗立僧堂が閉単しました。厳しい宗立僧堂の修行に参加した10名の海外僧の方々は皆ひとしく晴々とした顔をして仙台空港から成田を経て、それぞれのお国に無事帰って行かれました。

90日の間、この長泉寺で体験されたいろいろな禅の学びをそれぞれの国で大いに発揮していただきたいと思います。

さて、その日の夜、私は修行僧の誰か1人でもまちがって残っているのではないかと思い、真っ暗な坐禅堂にそっと扉を開けて入ってみました。当然のことながら堂内はしんとして誰もおりません。ほのかに修行僧の残り香のようなものが漂っている気配がするばかりです。その時私の心に、本当に終わったんだなぁという寂しさが一気に込み上げてきました。

話は変わりますが、先日ある葬祭会館で葬儀がありました。祭壇には新仏となられた故人様に仏膳が供えてありました。朱塗りの立派な本膳ですが、よく見るとなんか変です。それは本来お汁を盛る椀にご飯が盛られ、ご飯を盛るべき椀にたくさんの天ぷらが載っており、いわゆる壺皿というのでしょうか丸い縦長の湯呑茶碗の型をしたその細長い椀器の中に味噌汁が入れられてお供えをしてあったからです。

これは弱ったなぁと思いましたが、葬儀式はすでに始まっています。仕方なくその場は気づかぬふりをして、式終了後、盛付をされた若いスタッフの方を控え室にお呼びして、あれはちょっと盛り付けの器も器の配置も違うのではないかなと、お話をいたしました。すると彼女は「だってファミレスに行って定食を頼むとそのいわゆるツボの器ですか?、それに味噌汁が盛られてくるんですよ」と、キョトンとして返答し、言われてみればなるほどなぁと納得。だから間違えたのかと苦笑

し、本膳料理のノウハウを駄目にしているのは彼女ではなくファミレスの責任であったかと、妙な気持ちになりました。

つまり、修行と言うのは特別なところに行って特別なことをするのではなく、このような普通の日常生活の中でいろいろ学ぶことが本来の修行なのだとあらためて感じました。

言うまでもなく、私たちの修行も坐禅堂の中だけにあるのではありません。日常の生活そのものが修行です。海外僧の方々も私も宗立僧堂の修行は終わりましたが、それは同時に新しい生活の修行の始まりでもあるのです。失礼いたしました。

長泉寺には、ちょっと自慢できる美しい庭園があります。成人の日や卒業式、入学式、子どもの日、七五三、結婚記念日等々、またお見合い写真にも、是非想い出づくりのためにご利用ください。拝観料、利用料ともに無料です。

鐘を撞く・・・平成25年12月19日

おはようございます。毎朝6時に鐘を撞きます。撞く鐘は九声、但し、八声目は小さく、その後ひと呼吸入れてすぐに九声目を大きく撞きますから、人によっては鐘の音が八つとしか聞こえない人もいるようです。鐘を撞く間隔は2分、つまり九つ撞くのに14分とちょっとかかります。一日24時間の中の14分間は1日の約1%に相当します。けれども、このわずかな時間でも夜明けはあっという間にやってきて、みるみるあたりは明るくなります。

まったく「光陰は矢の如し」、あっという間に時は過ぎていくとこの時ぐらい身をもって感ずる時はありません。

ご存知の通り長泉寺の鐘楼堂は少し高い所にあり、境内の東の方角には木々もなく開けてお

り、遠く阿武隈山脈を眺み、次第に白々と明るくなる様子はとても綺麗です。まるで毎朝、元日の朝を迎えているようで清々しい気持ちになります。今日も新しい一日を迎えられた感謝と喜びの、至福の時です。

ところで、お寺の鐘はどなたにも自由に撞いていただける鐘でございます。これから来る大晦日の除夜の鐘だけでなく、朝は6時、夕方は5時に毎日撞いていますのでご希望の方はどうぞいらして下さい。そして、鐘をご縁にしていろんなお話しができれば嬉しいと思います。

是非、お寺に遊びに来ていただきたいと思っております。年末年始寒い時季になります。お体に気をつけてお過ごし下さい。ありがとうございました。

除夜の鐘・・・大晦日午後11時より～。

紅白鐘もち（先着一〇八家族）、甘酒、年越そばでおもてなしいたします。（なくなり次第終了になります。

あけましておめでとうございます・・・平成26年1月1日

あけましておめでとうございます。皆様おすこやかで穏やかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

大晦日の除夜の鐘にはたくさんの方々にお参りいただき、鐘もたくさん撞いていただきました。除夜の鐘の数は百八声と昔から言われています。煩悩の数が百八あり、それを一つ一つ潰していくのが除夜の鐘だと言われています。それで、その百八煩悩についてもっと詳しく聞かせてくださいという方もいらっしゃいますが、私にはよくわかりません。

ところで、これは落語の話ですが、「酒は百薬の長」の百薬の数え方について何とも愉快な説があります。それは酒を飲むと笑い上戸は「わっはっはっはっ、はっぱ六十四」、逆に泣き上戸は「しくしくしく、しく三十六」、はっぱ六十四に、しく三十六を足すと百になる。だから百薬の長だというのです。

まあいずれしろ数にこだわるのではなく、あーそういうものかと楽しくお酒を飲み、除夜の鐘も今年を振り返り新年を祈る心でたくさん撞くというのが